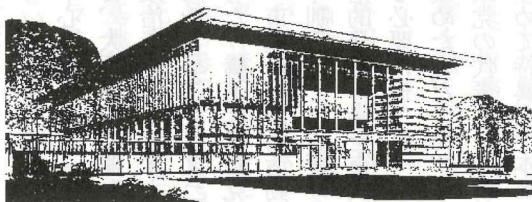


菅の原発事故対応を見直す

政界スキャン 連載……………332



しい。広島男性からの手紙には、

〈民主党の官邸のメダカどもの責任感のなさ、幼稚さにあきれてものが言えない。こんな連中に日本国史上最悪の国難を任せていたことに恐怖を覚える。〉

東電から全面撤退の申し出があったと知らせが届いて、超瞬間湯沸器の菅は理性を失って爆発炎上した。菅がいたから助かった？ そんな上等な話ではないだろう。

絶望的な状況にもかかわらず踏みとどまって原子炉を爆発から守ったのは、菅でもなければ、枝野、細野、大塚らのメダカでもない。東電社員と協力会社の名もなき作業員の皆さんだ。そこを間違えないでもらいたい……

と書かれ、報告書と同じ流れ。つまり菅のリーダーシップなど頭から認めていない。

一方、ジャーナリストの高野孟は、「神風」に救われた福島第一原発」と題する雑誌論文のなかで次のように書いた。

〈菅のリーダーシップを〉整理し直すという問題提起は正しい。私の結論を先に言ってしまうと、一例として民間事故調の表現を引けば、「官邸の現場への介入が無用の混乱とリスクを高めた」と述べ、

他も似たことを書いているのは、大変な間違い。あの時、我々がどれほどの「危機」に直面していたのかという最も肝心な問題をはぐらかしている、と思う〉

では、肝心な危機とは何か。高野によると、民主党原発事故収束対策プロジェクトチームの荒井聡座長(衆議院議員)のメモにその核心的事実がくわしいという。

荒井メモは冒頭で、米国の原子力発電の専門家と意見交換した時、「日本に神風が吹ききましたね。アメリカの専門家はもっと大きな被害になると危惧していたんです」と言われ、荒井が、「アメリカから持ち込まれた安全神話に対抗するには、神風しかなかったのですよ」

私も夜中に官邸にいて一人きりになる場面もあった。一体どこまでこの事故が拡大するのか。一番考えたのは、ソ連ではあのチェルノブイリ事故の時に政治指導者が軍隊の出勤を命じ、決死隊が放出を止めるために土とコンクリートの混ざったものを上から放り込み、最終的に石棺を造り上げた。はつきりしないが、数千人の命が失われたと言われている。

幸いにして日本はそこまで行かなかったが、もしそうなら、国として半ば成り立たない状況に陥っていたらどう思う」と語っている。

高野の結論はこうだ。〈私ならその立場にあっても、菅のように孤独にも絶望にも恐怖にも陥ることなく、冷静に対処しましたよ〉と言いつける人がいるなら、申し出てほしい。それを「混乱」を招いたとしゃあしゃあと書く各事故報告書はみな落第だ

菅の首相としての一般的リーダーシップは褒めたものではない。だが、原発事故のからみは、高野の指摘に賛成である。(敬称略)

地雷

リーダーシップとひと口に言うが、吟味は容易でない。即断即決的なものもあれば、潜行して発揮され同時進行では見えにくいケースもある。

最近、鋭く批判されたのは、福島第一原発事故の対応だった。すでに政府、国会など四つの事故調査委員会が報告書を提出しており、いずれも陣頭指揮をとった菅直人首相の初動が現場を混乱させたと言及した。菅のリーダーシップ欠如が批判されたのだ。

ところが、菅を補佐した当時の枝野幸男官房長官は、昨年末の講演で、

「私は実は本当に三月十一日の総理大臣が菅さんであつてよかつたと思つている。本当に政府全体がめちやくちやな状況の時は、あれぐらいわがままで強引でという人間でなかつたら、たぶん政府の機能が止まっていたのではないかと逆に評価した。その後、細野豪志原発事故担当相、大塚耕平厚生労働副大臣ら当時首相官邸の実動部隊をつとめた人たちも、同じように、

「あの時、菅さんでよかつた」と皮肉で応じたやり取りを紹介している。神風とは何を意味し、危機とどう連動したのか。荒井によると、

〈アメリカNRC(原子力規制委員会)のヤツコ委員長は、すぐさま事故のシミュレーションをやつた結果、福島第一原発一、二、三号機のメルトダウンを確信した。しかし、日本政府の発表はそうではなく、隠していると疑つた。特に重視したのは四号機の原子炉から取り出して間もない使用済み核燃料棒を貯蔵しているプールの状態であった。この貯蔵プールは冷却水を循環させなければ、崩壊熱で蒸発することは確実だ。水がなくなれば大量の放射能が放出される。しかも、その熱でプールの基盤が傷み、余震で崩れると手がつけられなくなる。メルトダウン以上の大災害となることは確実である。しかし、プールには水が残っていた。放射能大放出の大災害は防がれた。このことは長らく謎となつてきた。後に分かつたことは、当時、炉内の大型構造物の取り換え工事をしていた。工事期間中、



え・山田 繪

普段水のないところまで水を張つて工事をしていた。この工事が不手際で遅れていた。さらに、使用済み核燃料の貯蔵用プールの仕切り板のずれが生じていた。

その結果、周りからプールに水が流れ込んだ。工期が遅れていなければ、仕切り板がずれていなければ――背筋が寒くなる思いだ。

この二つの偶然が幸いしたのだ。これがアメリカの専門家の言う「神風」の意味である」ということだった。この神風論